

## 事務局報告

## 第3回奨励賞

日本植生史学会表彰規定(2002年11月17日制定, 2004年11月28日改訂)に則って, 奨励賞審査委員会(辻誠一郎委員長, 佐藤宏之・能城修一・百原新・山田昌久各委員)を設置し, 審査を行なった。その結果, 第3回奨励賞に以下の1件の論文を推薦することにした。

第3回奨励賞受賞論文: 工藤雄一郎「縄文時代の木材利用に関する実験考古学的研究—東北大学川渡農場伐採実験—」植生史研究 第12巻: 15-28。

第3回奨励賞受賞者推薦理由(日本植生史学会奨励賞審査委員会委員長 辻誠一郎)

本論文は, 実験考古学的手法によって縄文時代の木材利用や森林管理といった生業活動の復元を試みたものである。これまで遺物だけにもとづく生業活動の復元に偏っていた植生史研究や考古学の分野に新たな方向性を示した。本研究では, 調査地点の選定理由が明確で, 実験に仕様した道具も実際に出土した遺物に忠実に復元されており, 方法論が明快でかつ考察も客観性が高い。本研究の重要な特徴は, 実験参加者や道具の作成者など多数の協力者を得て行なわれたことであり, こうした研究プロジェクトは様々な学術的研究に発展する可能性が高い。このように本論文は研究手法や結果が明快で理解しやすく, 植生史研究全般の振興に寄与するものと期待される。よって, 本論文は奨励賞に値するものと評価でき, 受賞論文に推薦する。

## 日本植生史学会第23回談話会

第23回談話会を2005年5月14・15日の2日間, 山口県内において見学会形式で開催した。参加者は25名であった。

テーマ: 山口県東部における後期更新世(最終氷期)以降の植生史とその情報をもたらした堆積物の堆積場をつくった火山活動, そしてスギ埋没林

案内者: 辻誠一郎氏(東京大学)・木村勝彦氏(福島大学)・河村吉行氏(山口県史編さん室専門研究員)

場所: 山口県中～東部

## 第26回(2005年度第1回)幹事会議事録

日時: 2005年1月8日(土) 14:10～17:00

場所: 東京大学農学系キャンパス総合研究棟

出席者: 辻会長, 江口庶務幹事, 齋木会計幹事, 佐々木広報・渉外幹事, 能城編集委員長, 紀藤編集副委員長, 清永行事委員長, 辻行事副委員長

1. 日本学術会議会員候補者として鈴木三男氏, 辻誠一郎氏, 百原新氏, 佐々木由香氏の情報を提供した。

2. 海外交換雑誌はニュースレターで在巻号を公表する。
3. 幹事会, 奨励賞審査委員会, 選挙管理委員会などの役員の旅費支給は, 往復4000円以上の場合領収書を必要とし, それ以下の場合は本人申告の額とすることとした。なお主催行事に関連するものには支給されない。
4. ホームページ内の電子メールによる問合せ先は, レンタルサーバーの独自ドメインを取得した上, 共通アドレスとして各担当が対応することとした。ドメイン登録年数は1年契約とする。
5. 会誌最新3巻分の論文1頁目をホームページで公開するよう進めている。

## 第27回(2005年度第2回)幹事会議事要録

日時: 2005年4月23日 14:10～16:50

場所: 東京大学農学系キャンパス総合研究棟

出席者: 辻会長, 江口庶務幹事, 齋木会計幹事, 佐々木広報・渉外幹事, 能城編集委員長, 紀藤編集副委員長, 清永行事委員長, 辻行事副委員長

1. 第5期会長・評議員選挙の選挙管理委員長に山田昌久氏を会長が指名した。
2. 会員名簿の記載内容を調査することとした。
3. 海外からの一般的な会誌寄贈依頼は受け付けず雑誌交換のみとする。今後海外に向けてネット発信することを検討することにした。
4. ニュースレターについて海外在住会員へのメール配信をやめ今後は郵送に統一することとした。

## 第28回(2005年度第3回)幹事会議事要録

日時: 2005年7月2日(土) 14:10～17:20

場所: 東京大学農学系キャンパス総合研究棟

出席者: 辻会長, 江口庶務幹事, 齋木会計幹事, 佐々木広報・渉外幹事, 能城編集委員長, 清永行事委員長, 辻行事副委員長 欠席者: 紀藤編集副委員長

1. 第5期評議員選挙の結果, 辻誠一郎氏, 西田治文氏, 南木陸彦氏, 能城修一氏が選出されたが, 能城氏が辞退したため次点の守田益宗氏が繰上げ当選となった。
2. 山田選挙管理委員長による選挙総評を受けて次期幹事会へ以下の提案を申送る。会長選挙を先行した後に執行部を指名する。これら会員は被選挙権を持たない。過去に会長を2期務めた会員は再任できない。
3. 海外在住会員へ選挙投票用紙を発送する場合は返信用エアメール封筒を添える。
4. 第23回談話会の実施報告がされた。「山口県東部における後期更新世(最終氷期)以降の植生史, その情報を

もたらした堆積物の堆積場をつくった火山活動、そして「スギ埋没林」5月14・15日、山口県中～東部、案内者：辻誠一郎・木村勝彦・河村吉行、参加者：25名。

#### 第29回（2005年度第4回）幹事会議事要録

日時：2005年11月5日14:10～16:10

場所：東京大学法文1号館

出席者：辻会長、江口庶務幹事、齋木会計幹事、佐々木広報・渉外幹事、能城編集委員長、紀藤編集副委員長、清永行事委員長、辻行事副委員長（以上留任含む旧役員）、鈴木会長、大山庶務幹事、朝川会計幹事、大井行事委員長、高橋行事副委員長（以上留任除く新役員）

1. 第3回奨励賞の受賞論文が報告された。
2. 日本学術会議協力学術研究団体に申込を行なった。
3. 会誌通常号および特別第2号の編集状況が報告され、それぞれ年内刊行と11月下旬原稿最終締切を目指す。
4. 第20回大会の会場を京都府立大学合同講義棟に変更し、プログラムは11月中旬発行予定のニュースレター6号に掲載する。
5. 2006年度評議員会・総会での報告事項および審議事項の内容と進め方を確認した。

#### 第30回（2006年度第1回）幹事会議事要録

日時：2005年12月10日9:10～10:30

場所：京都府立大学合同講義棟

出席者：鈴木会長、大山庶務幹事、朝川会計幹事、大井行事委員長、高橋行事副委員長（以上留任除く新役員）辻会長、江口庶務幹事、齋木会計幹事、佐々木広報・渉外幹事、能城編集委員長、紀藤編集副委員長、清永行事委員長、辻行事副委員長（以上留任含む旧役員）

1. 2006年度評議員会・総会での報告事項および審議事項を最終確認した。
2. 会誌第14巻1号、特別第2号の編集状況が報告された。特別第2号については、年内を原稿の最終締切とすることになった。
3. 第24回談話会を2005年6月3・4日または10・11日（予定）に東北大学川渡農場において開催することとした。
4. 第25回談話会を総合地球環境学研究所において開催すべく準備することとした。
5. 第21回大会を2006年11月18・19日または25・26日（予定）に、早稲田大学において開催することとした。
6. 第22回大会の大阪市立自然史博物館での開催を検討することとした。
7. 書店を通じた会誌販売の要請について検討し、1冊当たりの小売価格を年会費の半額にすることを前提とし、書店へ会誌を卸すことに決定した。

#### 2006年度評議員会議事要録

日時：2005年12月10日11:00～11:40

場所：京都府立大学合同講義棟

出席者：百原、植村、山田、高原、松下、南木評議員（以上再任含む旧評議員）、守田評議員（以上再任除く新評議員）、辻会長、江口庶務幹事、齋木会計幹事、佐々木広報・渉外幹事、能城編集委員長、清永行事委員長（以上留任含む旧役員）、鈴木会長、大山庶務幹事、朝川会計幹事、大井行事委員長、高橋行事副委員長（以上留任除く新役員）

1. 2005年度の事業報告および会計報告・会計監査報告（総会資料）を承認した。
2. 2006年度事業計画の幹事会案を審議した。主な案件は以下の通りである。
  - 1) 1名の会員の再入会を認めることとした。
  - 2) 第21回大会における公開シンポジウムを担当する委員を大会実行委員会に新たに加えることとした。

#### 2006年度総会議事要録

日時：2005年12月11日11:40～12:10

場所：京都府立大学合同講義棟

議長：守田益宗

##### 1. 報告事項

##### 1. 2005年度事業報告

##### 1-1. 庶務

- 1) 会員動向（2005年9月30日現在）：名誉会員2名、賛助会員1社、一般会員353名、学生会員40名、団体会員6団体（前年度比：名誉±0、賛助±0、一般+3、学生+7、団体+1）。
- 2) 2005年度評議員会を2004年11月27日、総会を11月28日、中央大学において開催した。
- 3) 第5期会長・評議員選挙を山田昌久選挙管理委員長のもと行なった。
- 4) 日本学術会議会員候補者として4名の情報提供を行なった。
- 5) 日本学術会議協力学術研究団体に申込を行なった。

##### 1-2. 広報・渉外

- 1) ニュースレター4号・5号を編集・刊行した。
- 2) ホームページの管理と更新を行なった。

##### 1-3. 編集

- 1) 会誌「植生史研究」第13巻第1号・第2号を刊行した。
- 2) 会誌特別第2号「三内丸山遺跡の生態系史」の編集を進めた。

##### 1-4. 行事

- 1) 第19回大会を2004年11月27・28日、中央大学において開催した。

大会実行委員長：西田治文。大会実行委員：清永丈太、辻圭子。参加者：124人。

2) 第23回談話会を2005年5月14・15日、山口県中・東部において開催した。

テーマ：山口県東部における後期更新世（最終氷期）以降の植生史。

案内者：辻誠一郎・木村勝彦・河村吉行。参加者：25人。

3) 第20回大会を2005年12月10日・11日京都府立大学において開催すべく準備した。

## 2. 会計

### 1) 2005年度決算報告（2004年10月～2005年9月）

		単位：円	
収 入		収入予算	
会費	1,048,000*1	1,511,000	
会誌売上	238,010*2	100,000	
特別号(2)売上げ	0*3	1,200,000	
大会準備金返金	100,000	0	
寄付	140,000	0	
利息	8	0	
前年度繰越金	1,054,227	1,054,227	
収入合計	2,580,245	3,865,227	

\*1：年度後半に会費振込票を郵送していないため会費納入率が悪い。

\*2：会誌郵送料定額化前の郵送料を含むため端数が出ている。

\*3：特別号(2)および14(1),(2)は未刊。

		支出予算	
支 出		支出予算	
会誌印刷費	会誌編集印刷費 13(1)	361,200	420,000
	会誌編集印刷費 13(2)	338,100	420,000
	会誌編集印刷費 14(1)	0*3	420,000
	会誌編集印刷費 14(2)	0*3	420,000
	特別号(2)編集印刷費	0*3	997,500
会誌郵送費	会誌郵送費 13(1),(2)	71,945	120,000
	大会準備金	100,000	100,000
郵送費	ニュース紙等郵送費	118,000	70,000
	郵送補助(人件費)	72,000*4	80,000
	事務局移転費	35,500	20,000
	選挙関連郵送費	70,675*5	70,000
事務経費	一般事務経費	48,627	70,000
	賞状等	21,000*6	20,000
	幹事会等旅費	162,140	80,000
	封筒印刷費	31,500	80,000
	名簿発行積立金	0	50,000
	予備費	0	427,727
	支出合計	1,430,687	3,865,227
次年度繰越金	1,149,558		

\*3：特別号(2)および14(1),(2)は未刊。

\*4：時給1000円。

\*5：会長選挙、評議員選挙を個別に実施。

\*6：賞状および受賞者懇親会招待費。

### 2) 会計監査報告

「日本植生史学会2005年度収支の諸帳簿、預金通帳および諸書類などを厳正に監査しましたところ、適正に処理されておりましたので報告します。」会計監査：大井信

夫

### 3. 第3回奨励賞の推薦

日本植生史学会表彰規定(2002年11月17日制定、2004年11月28日改訂)に則って、奨励賞審査委員会(辻誠一郎委員長、佐藤宏之・能城修一・百原新・山田昌久各委員)を設置し、審査を行なった。その結果、第3回奨励賞に以下の1件の論文を推薦することにした。

受賞論文：工藤雄一郎「縄文時代の木材利用に関する実験考古学的研究—東北大学川渡農場伐採実験—」植生史研究 第12巻：15-28。

## 2. 審議事項

### 1. 2006年度事業計画

#### 1-1. 庶務

1) 事務局を東北大学植物園に移す。

2) 2006年度評議員会・総会を2005年12月10日(土)・11日(日)京都府立大学において開催する。

3) 会員名簿を編集・刊行する。

#### 2-2. 広報・渉外

1) ニュースレターを編集・刊行する。

2) ホームページの管理と更新を行なう。

3) 「植生史研究」の要旨をホームページ上で公開する。

#### 2-3. 編集

1) 会誌「植生史研究」第14巻第1号・第2号、第15巻第1号を編集・刊行する。

2) 会誌特別第2号「三内丸山遺跡の生態系史」を編集・刊行する。

#### 2-4. 行事

1) 第20回大会を2005年12月10日(土)・11日(日)京都府立大学において開催する。

大会実行委員長：高原光。大会実行委員：湯本貴和、大井信夫。

2) 第24回談話会を2006年6月3・4日または10・11日(予定)、東北大学川渡農場において開催する。

テーマ：石斧伐採実験のあとを訪ねる(仮題)。

3) 第25回談話会を総合地球環境学研究所において開催すべく準備する。

テーマ：微粒炭分析の講習会(仮題)。

4) 第21回大会(研究会設立20周年・学会設立10周年記念)を2006年11月18日(土)・19日(日)または25日(土)・26日(日)に、早稲田大学において開催すべく準備する。シンポジウムは一般公開を予定している。

シンポジウムテーマ：東京の考古植物学(仮題)。

大会実行委員：樋泉岳二、谷川章雄、高橋 敦。

5) 第22回大会の開催地候補として大阪市立自然史博物館を検討中である。

## 2. 2006年度予算案(2005年10月～2006年9月)

単位:円

収 入		
会費		1,492,000 <sup>*1</sup>
団体・賛助会員会費		51,000 <sup>*2</sup>
会誌売上		200,000
特別号(2)売上		1,200,000
前年度繰越金		1,149,558
収入合計		4,092,558
支 出		
会誌印刷費	会誌印刷費 14 (1)	420,000 <sup>*3</sup>
	会誌印刷費 14 (2)	420,000
会誌印刷費 15 (1)	特別号印刷費	997,500
	会誌郵送費 14 (1)	30,000
会誌郵送費	会誌郵送費 14 (2)	30,000
	会誌郵送費 15 (1)	30,000
名簿印刷費	バックナンバー郵送費	30,000 <sup>*5</sup>
	2006年度名簿印刷費	100,000
大会準備金	大会準備金	100,000
郵送費	ニュース紙等郵送費	120,000
	郵送補助(人件費)	80,000 <sup>*6</sup>
事務経費	一般事務経費	50,000
	各賞状等	20,000 <sup>*7</sup>
	幹事会等出席旅費	400,000 <sup>*8</sup>
	封筒印刷費	150,000 <sup>*9</sup>
予備費	予備費	695,058
支出合計		4,092,558

\*3: 60 pp., テキスト入稿、印刷会社編集の場合の税込価格。

\*4: 15巻2号は次年度出版の予定。

\*5: 特別号は会員配布ではなく販売されるため、郵送料は計上しない。

\*6: 時給1000円。

\*7: 賞状代、受賞者懇親会招待費。

\*8: 東京で4回幹事会が開催され、幹事全員が出席した場合を想定。

\*9: 新しい事務局所在地名入り学会封筒の印刷が必要となる。

賛成多数で承認された。

## 日本植生史学会第20回大会

2005年12月10・11日の2日間、京都府立大学において、京都府立大学の共催を得て第20回大会が開催された。詳細は以下の通りである。

会場: 京都府立大学合同講義棟

大会実行委員長: 高原 光 実行委員: 湯本 貴和, 大井信夫

日程: 12月10日(土) シンポジウム, 奨励賞授与式及び記念講演, 懇親会

12月11日(日) エクスカーション(京都府立植物園見学), 一般研究発表, 総会

シンポジウム「縄文から弥生にかけての近畿の環境史—考古と古植生のデータから「弥生化」を考える」(世話人: 湯本貴和)

宮路淳子: 近畿地方の遺跡分布と生業からみた弥生化

佐々木尚子: 縄文時代以降に近畿地方で起こった植生の様々な変化

村上由美子: 近畿地方における木材利用の変化

井上智博・辻本裕也: 近畿低地部での弥生化—大阪府池島遺跡の事例から

伊藤淳史: 近畿内陸扇状地での弥生化—京都市北白川遺跡群の事例から

一般研究発表(口頭発表)

大井信夫・北田奈緒子: 神戸沖ボーリングの花分析に基づく大阪層群海成粘土 Ma8 (約50万年前) 以降の植生史

中村俊夫・木村勝彦・今村峯雄・坂本 稔・奥野 充・小田寛貴・光谷拓実: <sup>14</sup>C ウィグルマッチングによる樹木年輪年代の高精度決定の研究

箱崎真隆・木村勝彦・河村吉行・辻 誠一郎: 宇生賀盆地スギ埋没林における年輪年代学的研究

野中俊夫: 奥羽山脈南部の風穴地帯におけるササ属の分布フロントと土壤温度—安達太良連峰鬼面山風穴と栗子山塊穴平風穴の場合

井上 淳: 琵琶湖西岸に分布する黒ボク土中の微粒炭

百原 新: 魚沼層群の大型植物化石群から復元した210～80万年前の古気候変化

山田昌久: 完新世日本列島における木部資源の建築材利用構想の変遷

工藤雄一郎・小林謙一・坂本 稔・松崎浩之: 東京都東村山市下宅部遺跡における縄文時代の水場遺構・クルミ塚・トチ塚等の<sup>14</sup>C年代測定樋上 昇: 愛知県朝日遺跡出土木製品の樹種と周辺の植生塚腰 実・岡本素治: ヨーロッパおよびアメリカ産 *Hemitrapa* と備北層群産ヒシ科化石の比較研究

木村勝彦・中村俊夫・新山 馨: 屋久スギの2000年の年輪幅クロノロジーの構築

生方正俊・那須仁弥・宮本尚子: 北海道におけるミズナラの葉緑体 DNA 多型の地理的変異から分布の変遷を推定する

一般研究発表(ポスター発表)

大土井晴子・高原 光・小田寛貴・中村俊夫: 沼原湿原におけるマツ科花粉増加層位と<sup>14</sup>C年代

吉川博章: 静岡県牧之原市須々木の更新統古谷泥層より産出した植物化石

吉田明弘: 福島県駒止水無谷地湿原における約40,000年前以降の植生変遷と気候変化

小椋純一: 明治以降における日本の草地面積の推移について

佐々木尚子・高原 光: 京都周辺における過去1万年間の植生変化と火の影響

河野樹一郎・中村麻子・高原 光・井上 淳：琵琶湖東岸部  
曾根沼周辺における過去 3000 年間の植生変遷と火事お  
よび 稲作農耕の歴史

中村琢磨・高原 光：八甲田山のブナ帯から亜高山帯にお  
ける表層花粉組成と植生の関係—GIS を用いた解析

南木睦彦・松下まり子：伊丹市岩屋遺跡の植物化石分析  
佐々木由香・能城修一・黒済玉恵・笠原菜保子：奈良・平  
安時代の谷部における植物利用—東京都東村山市下宅部  
遺跡の検討から—

辻本裕也・田中義文・馬場健司・斎藤崇人・高橋 敦・松  
元美由紀：池島・福万寺遺跡の縄文時代中期以降の植物  
化石群集

松本みどり・西田治文：白亜紀のコバノイシカグマ類の多  
様性

日本大学文理学部地球システム科学科

金 姓旭 (学生)

熊本大学社会文化科学研究科

國木田 大 (学生)

東京大学大学院新領域創成科学研究科環境学専攻

小石澤 泰子 (学生)

東京大学大学院新領域創成科学研究科環境学専攻

小林 真生子 (学生)

千葉大学園芸学部緑地・環境学科

北川 陽一郎 (学生)

大阪市立大学理学研究科人類紀学研究室

中村 琢磨 (学生)

京都府立大学農学研究科森林環境学研究室

山梨県立博物館 (団体)

#### 第 24 回日本植生史学会談話会

テーマ：石斧伐採実験のあとを訪ねる (仮題)

世話人：鈴木三男 (東北大学)・山田昌久 (首都大学東京)

場所：東北大学川渡農場

日程：2006 年 6 月 10 日 (土)・11 日 (日)

参加費、定員など詳細は未定です。

#### 第 21 回日本植生史学会大会

第 21 回大会 (研究会設立 20 周年・学会設立 10 周年記念)  
を 2006 年 11 月 18 日 (土)・19 日 (日) または 25 日 (土)・  
26 日 (日) に、早稲田大学において開催します。シンポジ  
ウムは一般公開を予定しています。

シンポジウム：東京の考古植物学 (仮題)。

大会実行委員：樋泉岳二、谷川章雄、高橋 敦

詳細なスケジュールは未定です。

#### 異動会員

岡田 賢 (学生) → (一般)

#### 退会会員

長谷川陽一、宮下 治、倉橋直孝、緑川謙二

#### 事務局移転のお知らせ

2005 年 10 月より日本植生史学会事務局が変更になりま  
した。千葉県立中央博物館から東北大学植物園に移転とな  
ります。10 月以降の学会事務局宛の連絡は下記までお願  
いします。

新事務局：〒980-0862 仙台市青葉区川内 12-2 東北大学  
植物園内 TEL022-795-6761 FAX 022-795-6766

学会メールアドレスの変更はありません。

庶務一般：main@hisbot.jp 会誌投稿：journal@hisbot.jp

#### 会員動向 (2005 年 1 月～12 月)

##### 新入会員

竹本 拓史 (一般)

清明学院高等学校

荒川 隆史 (一般)

新潟県立歴史博物館

大谷 弘幸 (一般)

千葉県立中央博物館

中沢 道彦 (一般)

長野県農政部・早稲田大学先史考古学研究所

村田 泰輔 (一般)

#### 第 5 期日本植生史学会役員

(任期：2005 年 10 月 1 日～2007 年度大会)

会 長：鈴木三男

評議員：辻誠一郎、西田治文、南木睦彦、守田益宗

幹 事：能城修一 (総括)、大山幹成 (庶務)、朝川毅守 (会計)、  
佐々木由香 (広報・渉外)

編集委員会：能城修一 (委員長)、紀藤典夫 (副委員長)

行事委員会：大井信夫 (委員長)、高橋 敦 (副委員長)